

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770801450		
法人名	アミコ株式会社		
事業所名	グループホーム アミライフ・東住吉 第①ユニット		
所在地	大阪府大阪市東住吉区住道矢田6丁目2番24号		
自己評価作成日	令和2年10月23日	評価結果市町村受理日	令和3年2月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=2770801450-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和2年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は新型コロナウイルスの世界的流行で当施設でも感染予防に力を入れ、利用者様や御家族様にも協力して頂き現在まで利用者様・職員共に感染者は出ていません。面会自粛期間も設け家族に会えない寂しい期間もありましたが、電話での面会やガラス越しでの面会等を徐々に緩和していき利用者様のストレスが溜まらないように心がけていきました。散歩などの外出も禁止していましたが外に出る事が出来ませんでした。敷地内で外の空気を吸い少しでも季節を感じて頂けるように気分転換も行ってきました。施設内では感染予防に努めながら行事も行い夏祭りや敬老会を開催致しました。医療面でも母体が医療法人ですので緊急時の対応や往診にて連携も取れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念の基ホーム独自の理念を掲げ、利用者や家族、職員、地域の方等関わる全ての方との関わりを大切に日々の支援に取り組むと共に利用者の思いを大切に得意な事や好きな事、役割を持ってもらいながら日々過ごしてもらえるよう支援しています。地域においては例年自治会長を通して地域の情報を収集し地域行事やふれあい喫茶に利用者や参加したり、認知症の理解を図るためホームで食事会の開催等行っていました。今年度はコロナ禍で活動が全て中止になっていますが運営推進会議を通してホームの活動報告をしたり、近隣大学の実習については感染症対策を徹底工夫した上で受け入れを行っています。また母体が医療法人で医師や看護師との24時間連携や病院への受け入れ体制が整えられ、看取り支援も家族の意向に添いながらチームで取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔・信愛・憩い」を法人理念とし、「人と人のお付き合い」を事業所の理念として職員間で共有できるようフロアに掲げています。	法人理念の下ホーム独自の理念を掲げ、前回の外部評価後に理念の見直しを検討した結果これまでの理念を継続しています。理念はリビングに掲示し、週に1回は申し送り時に唱和し意識付けを行い、入職時には理念に込められた思いを説明しています。利用者や家族、職員、地域の方等関わる全ての方との付き合いを大切に日々の支援に取り組む事で理念の実践につなげています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年はコロナの影響で地域との交流も出来ず、イベントも全て中止になり参加することができませんでした。	コロナ禍以前は地域の行事やふれあい喫茶に利用者と参加したり、認知症の理解を得る取り組みや併設の託児所の子どものふれあいがありました。今年度は活動が中止になっていますが、近隣の方への挨拶や託児所の子どもの手紙をもらったり、近隣大学の実習については感染症対策を徹底工夫した上で受け入れを行う等出来る範囲での取り組みを行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年は地域との交流が難しく地域貢献は出来ませんでした。過去には施設内で地域の方を招待して食事を開催し認知症の方を理解して頂いたり、地域の清掃にも利用者と参加していました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回運営推進会議を開催していましたが、今年は4月からコロナの影響で会議は中止しています。施設での活動報告や地域の情報など書面で意見交換しています。	会議は隔月に町会長や女性部長、地権者、社会福祉協議会や地域包括支援センター職員の参加を得て開催し、利用者の状況やホームの行事、事故報告、身体拘束適正化委員会を行い意見交換し、地域の情報を得る等有意義な会議となりました。今年度は参加者に書面を送付し、地域包括支援センター職員からは評価をもらっています。	会議への家族の参加が得られていない状況のため、運営推進会議の意義や目的を伝え、地域の方と共にホームの現状や活動、地域の取り組み等一緒に話し合う機会となる事が今後期待されます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区の連絡会や講習会などに参加していましたが今年は全て中止になりました。分からない事や相談事があれば直接介護保険課に問い合わせています。	コロナ禍のため書類等の提出で窓口に行く機会は減っていますが郵送したり、不明な点があれば電話で聞いています。今年度は中止となっていますが行政の研修案内があれば出来る限り参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会にて研修を行い施設の会議などで事例検討を行い学んでいます。各階の玄関は利用者の状態を観て開錠していましたが今年はコロナで換気の意味もあり開けている時間は長かったです。	2カ月に1回身体拘束に関する研修として適正化委員会を兼ねて行い、事例検討を行い、言葉掛けや薬による行動制限についての話もしています。不適切な場面があれば管理者から注意すると共に職員同士でも注意し合えるよう努めています。玄関やフロア入口は利用者の状況により一時的に施錠する事がありますが基本開錠しており、外出希望があれば花の水やりや散歩等気分転換を図ってもらっています。	

グループホームアミライフ・東住吉①

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修も施設内研修にて学び、職員が周知できるようにしています。入浴中に体に痣がないか確認し利用者からの声にも耳を傾け虐待が見過ごされることがないようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度やあんしんサポートを利用されている方がおられ、密に連携を取り利用者の権利擁護に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居・退去時には御家族様に書類を提示しながら説明を行っており、特に重要な個所については時間をかけてご理解して頂けるようにしています。後日不明な点がありましてもその都度説明しご理解頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段は面会時や行事に参加された御家族様に対してご意見やご要望を聞いていましたが、今年は面会自粛との事もあり月々の様子をお手紙で郵送したり定期的に電話にて報告などとしています。	日常の関わりの中で利用者の食べたい物等聞き得た場合は行事の際の食事やおやつ等で反映しています。家族には年に2回発行の法人全体の写真入りの通信や利用者の様子を毎月手紙で伝え、電話や年1回のアンケートで意見を聞いています。面会が出来ない事についても理解を得ており、電話の取り次ぎや今後はリモートでの面会を予定しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも職員が声を掛けられる環境にしており、意見や提案を聞けるようにしています。また、毎月全体会議を開催しており事前に職員から議題を募集して実践し再検討などとしています。個別でヒアリングも行っています。	毎月全体会議では業務についての話やカンファレンスを行い、会議前には全職員から議題を収集し話し合っています。業務の見直しについては常に意見が上がり、人手が不足した際には業務分担を見直し簡略化出来る事等を話し合ったり、除菌出来る空気清浄器等の物品購入については法人にあげています。管理者による年に2回の面談や日々の中での声掛けを行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	コミュニケーションの中から職員の思いや目標などを聞き出したりしています。勤務態度や貢献度に応じて評価し給与水準に反映させています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年は法人内の研修も行えず、施設内での研修に力を入れています。また、実習生に指導員を付け指導する立場になり自らも介護技術の向上に繋がっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に他事業所との施設見学会や意見交換会があり交流していましたが、今年はコロナの為交流を中止しています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様と面談を行い何気ない会話の中から困っている事や不安なことを傾聴しアセスメントを作成しどのようなサービスが必要か検討して信頼関係を築いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	離れて暮らすことへの不安や大切な家族がどのような生活を送って欲しいかなどの要望を受け止め安心して頂けるような関係性を築いていけるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の本人様や家族様の状況を的確に見極め今どうすることが最善であるかを考えて対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今で来ている事や、機能の維持・向上に努め刺激のある生活を送って頂けるようにできることはしていただきお手伝いなどとして頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様にしかできないことや絆を大切にしながら家族様にも現状を密に報告し、一緒に考え悩みよりよい解決策を模索しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の集まりや、法事お墓参りなど関係性が途切れないようにできる限り支援はさせて頂いています。今年はコロナの影響で外出も自粛にさせて頂いていますので、電話やお手紙にて関係が途切れないようにしています。	コロナ禍以前は以前近所に住んでいた方や宗教関係の方、親戚等馴染みの方の訪問があれば居室で過ごしてもらったり、車椅子の方が親戚の集まりに行く際は送迎の支援や家族の協力を得て法事や墓参り等に出掛ける方もいました。現在は面会や外出が出来ない状況ですが、電話の取り次ぎや手紙が届いたら渡したり、返事を出す際には葉書の準備やポスト投函と一緒に付き添っています。	

グループホームアミライフ・東住吉①

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の場なので全員が関係性良好だとは言えませんが、仲の良い利用者同士でお話をされたり職員が間に入って利用者同士がコミュニケーションできるように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方の御家族様にも現在の状況や必要に応じて助言や他施設の紹介なども行っています。入院された方に対しても可能な限りお見舞いに行くなど今までの関係性を大切にしています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から本人の希望や困っている事などを職員間でも収集し、担当者会議などで話し合ったりしています。また、御家族様や関係者にも意向を聞いたり情報収集を行い、なるべく本人本位で検討しています。	入居前に自宅や病院等に出向き利用者と家族から生活歴や趣味、習慣、望む生活、身体状況等を聞きアセスメントシートにまとめると共に以前のケアマネジャーや看護師からも情報をもらっています。入居後は生活記録や気付きを経過記録に残し職員間で共有し、思いの把握が困難な場合は家族に聞いたり、思いを汲み取れるよう努めカンファレンスで話し合っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談時に本人や御家族様、担当ケアマネ等に現在までの生活歴や趣味趣向などの情報を収集し把握に努めています。生活環境もベッドではなく布団の対応も行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方を詳細に生活記録に記入し、期間帯の把握や小さな変化も見逃さないようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の意向、主治医の意見をもとに職員間で担当者会議を開きケアプランを作成しています。状態の変化によって再アセスメントやプランの変更も行い多職種と連携してプランを作成しています。	本人や家族の思い、アセスメントを基に介護計画を作成し、初回は3カ月、その後は変化が無ければ基本6カ月毎に見直しをしています。見直しにあたってはモニタリングと再アセスメントを行い、サービス担当者会議を開催しています。また往診時に医師に相談し状態や課題を聞き計画に反映しています。また日々の生活記録を記入する際に個々の計画を閲覧出来るようにしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者ごとに個別記録を作成し、情報の共有や気付いたことなど観察し記入するように1カ月に1回更新しています。特記事項などがあれば申し送りノートに記入し情報共有しています。		

グループホームアミライフ・東住吉①

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望により外出や病院の受診などその時々生まれるニーズに対して出来る限りの対応はしております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ふれあい喫茶や近隣の大学の文化祭など地域資源を活用し施設内だけではなく外に出て社会との関わりに努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に母体病院より往診にて医療連携が取れており医師と看護師が来てくれます。必ず決まった往診医ではなく入居前から馴染の診療所より往診も過去には来ていました。	入居時に希望のかかりつけ医を聞いていますが現在は全員が母体病院であるホームの協力医による往診を月に2回受けています。体調不良時等24時間連絡可能で病院の看護師から指示をもらい医師に繋いでもらい場合によっては随時の往診を受けています。専門医への受診はホームの対応で受診し、週に1回訪問看護師による健康管理を受け、また希望や必要に応じて歯科の往診を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護で利用者の健康状態を把握しています。医師との連携を図り職員からの疑問や注意点など指摘して下さります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に面会へ行き、利用者の状態を把握し家族の思いや病院側や主治医とも相談し早期退院や情報交換に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人や家族様に密に説明し、重度化した場合の選択肢や事業所で出来ることなどをご理解されるまで説明しています。利用者の段階に応じて家族を交えて主治医と相談の場を設けたり希望等を確認しています。看取りも対応しています。	入居時に看取り指針を基に説明しています。これまでに看取り支援の経験があり、利用者の状態に変化があれば早めの段階で家族に相談し様子を見てもらい、看取り支援前には医師から家族に説明があり希望を聞いて方針を決定しています。希望で入院を選ぶ方もいますが、ホームでの支援の際は看護師からアドバイスをもらったり、家族に付き添いや泊まり等の協力を得ています。対応の研修や職員の不安軽減に向けた勉強会はケース毎に看護師に行ってもらっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や連絡手順を職員が見えるところに掲示し速やかに対応できるようにしています。応急手当やAEDの研修など行い看護師からも指導をして頂いています。		

グループホームアミライフ・東住吉①

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防訓練を行っています。避難経路や避難先などを把握し災害時に対応できるようにしています。非常食や水も常備しています。水害時の訓練も同様に行っています。地域との協力体制はなかなか築けていません。	年に2回消防訓練を昼夜想定で行い、通常1回は消防署立会いで通報や水消火器を使った訓練、利用者と一緒に避難誘導を行い、独自では階段をマットレスを使用し利用者を運ぶ想定で訓練をしています。運営推進会議の際に訓練の案内や報告を行い協力についても依頼し、訓練の際は近隣の方に知らせています。備蓄は3日分の水や食料の他カセットコンロ等を準備しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、言葉遣いや上から目線の介護にならないように職員同士で注意しあっています。なじみの関係が築けるとその方に合った声掛けをしています。同性介助も可能な限り対応しています。	年に1回接遇マナーや認知症に関する研修を代表者が受講し職員に伝達を行っています。利用者への言葉掛けは丁寧語を基本とし、馴染みの関係の中や利用者にとってわかりやすい呼び掛けをする事もあります。不適切な場面があれば管理者から注意をしています。また声のトーンや排泄介助の際は耳元で話をしたり、希望があれば同性介助の対応もしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意見や要望を傾聴し、急がずに自己決定できるように選択肢を限定したり工夫をして利用者本位の支援が行えるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく利用者優先を心がけています。強制ではなく本人の希望に沿った支援を提供させて頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類や身につける物をご自分で選んで頂き、外出の際はお化粧をされる方もいます。2か月に1回訪問理美容にて散髪も行い身だしなみには注意しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間は職員も一緒に同じものを同じ時間に食ベコミュニケーションや食事量の把握も行っています。準備や後片付けも手伝ってくれています。年間行事で何度か外食もありますが、今年度はコロナで外食は出来ていません。	朝食はホームで考え、昼食と夕食は業者の献立にそって食材が届きホームで調理をし、利用者には野菜を包丁で切ってもらったり、食器拭き等に携わってもらっています。業者の献立には旬の物やグルメメニュー等やお節やちらし寿司等行事メニューもあり、また利用者の希望を聞いてバイキング形式にしたり、寿司パーティーやピザの宅配、手作りケーキ等食事が楽しみなものになるよう工夫しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量や形態など職員は周知しています。1日の水分量の合計もチェックし把握しています。健康状態に合わせた食事も提供しています。		

グループホームアミライフ・東住吉①

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、その方に応じて見守りや介助を行っています。定期的に義歯の消毒も行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄の時間帯や感覚を把握し出来る限りトイレで排泄が行えるようにしています。利用者の自尊心を傷つけないように失敗をなるべく防ぐようにしています。失禁＝オムツではなくどうすれば失禁しないかを職員で検討しています。	生活記録の中で全利用者の排泄記録を取りパターンを把握し、個々のタイミングに合わせサインを見逃さず日中はトイレでの排泄を大切に、車椅子を使用している方も2人介助で支援しています。布の下着で過ごし自立している方もおり、また支援の継続によりパッドの大きさが変更になった方もいます。夜間のみ排泄状況が変更になる方等職員間で話し合いながら個々の合わせた支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量のチェックや排便のカウントを行っており、乳製品や体操などで運動し腸の働きを促しています。また、ホットパックなども使用しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回入って頂くようにしていますが、曜日や時間帯はこちらで決めているのが現状です。利用者の気分や体調に応じて変更はしています。入浴を少しでも楽しんで頂けるように入浴剤を使用したり冬にはゆず風呂も行っています。	入浴は週に2回、午後からの時間帯で支援し、順番は希望を聞き、マンツーマン対応でゆっくり寛いでもらいながら思いや昔話を聞く機会になっています。入浴剤の使用や柚子湯をして楽しんでもらったり、個人でシャンプー等準備している方もいます。入浴を拒否する方には声掛けを工夫し、時間や対応する職員を代えたり次の日にする等無理なく入浴出来るよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠される環境を作るようにしています。昼夜逆転にならないように昼間はなるべく刺激のある生活を送って頂き、夜間不眠の方も不安な気持ちを取り除くように傾聴しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	生活記録に各利用者のお薬情報を入れており、いつでも閲覧できるようにしています。服薬時には必ずダブルチェックを行い飲み込まれるまで確認しています。薬に関しては薬局に相談や副作用など確認できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	読書を楽しまれる方や歌番組が好きな方、ぬり絵が得意な方は作品を掲示して皆さんに見て頂いたりしています。好きな事楽しい事を日々の会話から探るようにしています。		

グループホームアミライフ・東住吉①

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩や外に出て気分転換をして頂いたり、家族様と外出や食事など出かける機会は多く作っていましたが、今年はコロナの影響で外出を自粛しており家族様と外に出ることはありません。	コロナ禍以前は週に1回以上天候が良ければ散歩や食材の買物に一緒に行ったり、弁当を注文して公園で食べたり、初詣や桜の花見、いちご狩り等の季節の外出や外食、家族との外出に行っていました。現在は少しの時間での散歩や玄関先や駐車場で花壇の水やりや外気浴をしてもらっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理をご自分でできる方には家族様にご理解して頂き所持されている方もいます。近隣のスーパーに買い物に行かれたりもされています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様にも協力して頂き、本人が電話をしたいと要望があれば繋いでいます。声を聴くことで安心される方もおられます。年賀状などお手紙のやり取りの支援も行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースにはくつろいで頂けるようにソファやチェアを用意しています。また、季節に合った飾り付けなども行っています。歩行の邪魔にならないようにあまり物を置かないようにし、読書が好きな方には文庫本や雑誌なども置いています。室温調節をして湿度も加湿器で調整しています。	リビング利用者と一緒に生花を飾ったり、雛祭りや兜、クリスマスツリー等季節毎の飾り付けや季節に応じた塗り絵の作品を飾っています。席の配置に配慮し、テレビのあるソファコーナー以外にもトイレ前や廊下の奥に長椅子や二人掛けの椅子を随所に置き少し離れた所で過ごせる場所を確保しています。毎日換気や利用者と一緒に掃除を行い、空気清浄加湿器を置き、温湿度計で確認しながら居心地良く過ごせるよう努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	生活の中で1日を過ごす自分の居場所があり、落ち着かれる環境作りをしています。他の階の利用者との交流もあり気の合った方同士会話を楽しまれています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用しておられた馴染みの家具や写真などを用いて住み慣れたお部屋に近い状態で過ごしていただいています。使い慣れた布団や枕、仏壇なども持ってこられています。	居室には洗面台が備え付けられており、入居時には馴染みの物を持ってきてもらうよう伝え、利用者はタンスやテレビ、鏡台、扇風機等を持参し、安全に配慮し相談しながら家族が配置しています。また大切にしている遺影や位牌、家族の写真を側に置いている方や趣味の編み物や読書、クロスワードパズルをしたり、新聞を取っている方もおり思い思いに居室で過ごしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内には手すりが設置されており歩行訓練をされる方もいます。トイレの場所は分かりやすく表示しており車椅子で自走される方もおられますのでスペースを確保するようにしています。		